

IF取得対応ワーキンググループ(委員会)

委員長:小澤正吾(岩手医科大学)

主な役割・使命	具体的な事業内容	備考
<p>日本薬物動態学会・欧文学術誌Drug Metabolism and Pharmacokinetics (DMPK)はPubMedに掲載され、電子投稿化へ順調に移行した。本誌が国際的な認知度を深め、国外からの投稿数増を達成させる要因として、インパクトファクター(IF)の取得が課題として挙げられた。インパクトファクター取得の条件であるThomson Scientific (Thomson)社のISI Web of Scienceの選定誌となることを求め、2005年3月より本誌の学術的な内容が高い水準にあることはもちろん、定期的な編集・発行が保証されていることを認められるための継続的な作業を経て、本年夏選定誌となった。結果、2010年上半期にJournal Impact Factorが公表されることになった。今後は被引用回数の調査を始め、技術的な面でThomson社との連携が必要である。本ワーキンググループは学会のIF取得の窓口となってThomson社との連携をスムーズに維持する役割を担う。</p>	<p>本ワーキンググループはDMPKのPubMed掲載、電子投稿化、IF取得に係る過程を担当してきた。IFの数値公開は、具体的被引用回数計測を経るが、現時点で予測していない技術的問題が発生する可能性がある。そのような場合学会の代表として本ワーキンググループはThomson社と連絡をとり、必要に応じ電子投稿システムManuscriptCentralの日本代理店杏林舎との調整をして問題解決に当たる必要がある。また、電子投稿は現時点で大きな問題なく運用できているが、受理原稿のより早期の公開の方策を探るなど、英文誌部分のより良いあり方を追求し、実現する。</p>	